

北海道大学が拓く 最先端科学

北海道から世界へ, 世界から北海道へ

2009年12月11日(金) ➡ 12月20日(日) (14日(月)は休館)

連続講演会: 12月13日(日)

会場: 国立科学博物館(東京・上野)
[新潟大学、同志社大学と同時開催]

科博に行けば
北海道大学の
「今」がわかる!

ゾーン **A**

北海道大学の今

「北大にしか無いもの」の数々、
映像で見せます。
北大の研究者が子どもの頃から
出会ってきた様々な「科学」を紹介します。
きっとみんなと共通点があるはず!

ゾーン **B**

地球環境の 未来をつくる

最近100年間の地球環境の変化を
観測データでダイナミックに伝える
「地球環境大年表」。
子ども観測隊に入って
館内の「環境」を調査しよう!

ゾーン **C**

人間の社会を作り出す 心のメカニズムの解明

～文化と協力を社会生態学的観点から探る～

良い協力関係を作るため、
人にはどんな心が備わっているのだろうか?
心にも文化差があるのだろうか?
心理学実験で謎に迫ろう!

ゾーン **D**

触媒からはじまる イノベーション

北海道大学の触媒化学は
世界の物質化学の研究・
教育拠点を担っています。
週末には触媒の面白さを伝える
実演コーナーがあるよ!

ゾーン **E**

人獣共通感染症の 克服を目指して

インフルエンザなどの
人獣共通感染症の解説。
実験設備やウイルスの模型の展示。
顕微鏡、実験操作、防護スーツも
体験できます。



北海道大学が拓く 最先端科学

北海道から世界へ、世界から北海道へ

連続講演会

開催日: 12月13日 ①

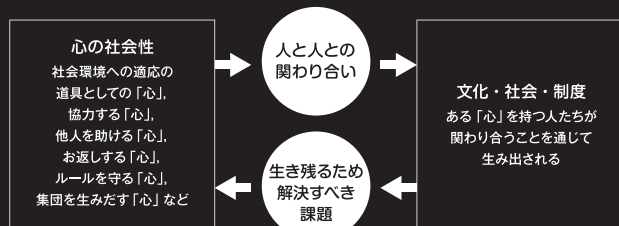
会場: 日本館講堂

10:00 ~ 11:00

心の社会性

亀田達也 (北海道大学大学院文学研究科・教授)

人間の「心」という不可思議な存在は、いったい何のためにあるのでしょうか？ 私たちは、人の心とは「集団や社会の中でうまく生きていくための道具」と考えています。他の動物と違って、人間は、家族や親族を超えた「非血縁の相手」との間に、大規模な協力の関係や助け合いの仕組みを作ることができます。「社会を作り、社会の中で生きる」ことが人間の本質的な生きざまとしたら、そのためには「心」にどのような仕組みが備わっていないといけないのでしょうか。この問いについての私たちの挑戦を、いくつかの心理学実験を例に挙げながらお話しします。



11:30 ~ 12:30

クールな科学者のホットな履歴書

「100年観測で

地球温暖化の解明をめざす

プロジェクトリーダーの素顔に迫る」

〈サイエンス・カフェ〉

山中康裕 (北海道大学大学院環境科学院・准教授)

北海道大学大学院環境科学院のグローバルCOEプログラムは、100年間続く地球観測を行う人的基盤づくり、市民と協働する大学づくり、国際的に活躍する研究者づくりをしている。北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット(CoSTEP)の関東在住の受講生たちが、山中さんと対話することで、「世界をリードする研究者、若手研究者と働くプロジェクト経営者、CoSTEPの学生」といった、拠点リーダーの素顔を明らかにする。

ロシア・ヤクーツク近郊での
2009年海外フィールド観測サマースクール

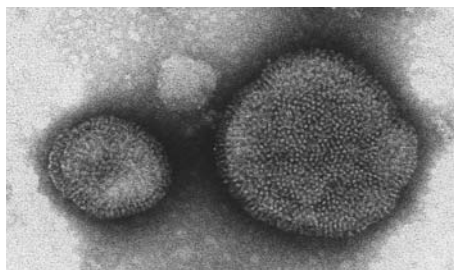


13:30 ~ 14:30

鳥、ブタ、 そしてパンデミックインフルエンザ

喜田 宏 (北海道大学大学院獣医学研究科・教授／
北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター・センター長・
教授)

「鳥インフルエンザ」も、「ブタインフルエンザ」も、「新型インフルエンザ」も、ヒトの病名としては、適切ではない。すべて「インフルエンザ」であることを前提に、対策を講ずるべきである。さらに、日本だけで毎年数千名を死亡させ、数百名の小児に脳症を起こしている、「シーズナルインフルエンザ」の克服こそが、パンデミックインフルエンザ対策の基盤となることを強調したい。



15:00 ~ 16:00

触媒が拓く未来

服部 英

(北海道大学触媒化学研究センター研究推進支援教授)

触媒は、私たちが日常の生活に使っているプラスチックや繊維を始め、洗剤、溶剤から農業、医薬品をつくる化学工業になくてはならないものである。また、やがて訪れるであろうエネルギーや環境に関する課題を解決するためのカギとなる働きをする物質である。今回は、身近に見られる触媒から話を始め、触媒とはどのような働きをするかを理解してもらおうとともに、これまではたてきた触媒の役割をふりかえり、未来の社会に寄与する触媒についての話をします。

